

外国人学生が不思議な場所で不思議な時間を最大限に活用する

エヴァ・ワズニー

フローレンスシュルエップの海外での時間は期待通りにはいきません。

2月の終わりにスイス出身の30歳の女性がウィニペグに上陸したとき、彼女は英語を勉強し、新しい友達を作り、この夏アメリカに旅行するのを楽しみにしていた。その代わりに、シュルエップと彼女のボーイフレンドは先月賃貸アパートに閉じ込められており、急速に蔓延しているコロナウイルスから隔離されています。

「私たちは去り、すべてが正常でした」と彼女は言った。「それは非現実的でした。それがヨーロッパやカナダに来るとは思わなかったでしょう。」

シュルエップは65名のハートランドインターナショナルイングリッシュスクールの生徒の1人であり、世界的なパンデミックが発生している間、ウィニペグで効果的に立ち往生しています。

ウィリアムアベニューにある私立語学学校であるハートランドは、カリキュラムをオンラインで成功裏に動かしましたが、創設者兼社長のゲイリージャーベイスは、彼の業界の将来について懸念しています。

「もしあなたがこのようなものによって破壊されるであろうビジネスになりたかったら、私たちはそれを手に入れました」とジャーベイスは言った。

「学生は飛行機に乗り、ビザが必要で、教室に集まり、COVID-19パンデミックによって即座に破壊されたすべての箱をチェックします。」

ハートランドは、フルタイムとパートタイムのクラスと英語能力試験を、世界中から一度に130人もの学生に対して実施しています。2018年には、大多数の学生がブラジルと中国からの学生でした。

ウィニペグ滞在中、学生はホームステイファミリーに滞在したり、自分の宿泊施設を手配したりできます。Gervais氏は、Heartlandの現在のすべての学生は、隔離できる安定した生活環境を持っていると言います。

言語教師は事実上レッスンを提供することができましたが、プログラムの観光側は障害にぶつかっています。

「私たちが提供しているものの一部は、この文化的でカナダとウィニペグの経験です」とジャーベイスは言った。「これは移行中に失われたものです。」

学校は通常、金曜日に美術館、ギャラリー、映画館への遠足を企画しています。ギャップを埋めるために、ハートランドはオンラインワークショップを実行するために地元のアーティストを雇ってきました。

シュルエップにとって、学習は順調に進んでいますが、クラスメートとの社会的接触の欠如は困難です。

「別の国に行ってそこで言語を学んでいるとき、あなたは何人かの人々に会うことを期待しているでしょう、おそらくあなたのクラスの後の金曜日にビールに行きます」と彼女は言った。「それは今のところ欠けているようなもので、とても悲しいことです。」

シュルエツプは、これまでに25,834人のCOVID-19と900人の死者が出たスイスで、前向きな状態を保ち、家族と連絡を取り合うよう努めています。

「私のお父さんは70歳を超えているので、ちょっと怖いですが、彼は家にいて他の人と連絡をとっていない（持っていない）のはかなりいい仕事をしていると思います」と彼女は言った。

オルフェミ忍野さん（49）は、ナイジェリアから1月にウィニペグに来たハートランドの最近の卒業生です。彼は11歳の息子がここで学校を卒業する間、市内での長期滞在を計画しています。

新しい国への移動は、これまで奇妙な経験でした。

「私は自分のコミュニティを知る（愛する）種類の人です」と彼は言った。「しかし、このコロナウイルスのために注意する必要があるので、私が実際に行く唯一の場所はモールです。」

忍野氏は、月曜日の時点で323人の症例と10人の死者が出たナイジェリアの親戚と常に連絡を取り合うことで、ウイルスに対する懸念を管理してきました。

「数はかなり低いままですが、それはまだ何かです」と彼は言った。「どこでもロックダウンされているため、人々は仕事に行ったり、どこにでも行くことはできません。」

一人暮らしで、春の天候は予測不可能ですが、忍野氏はウィニペグの第一印象をよく持っていると言います。

「人々はここで愛しています」と彼は言った。「私は人々と良い経験をしました。」

eva.wasney@freepress.mb.ca



ジョン・ウッズ/ WINNIPEG FREE PRESS



ルース・ボネビル/ウィニペグフリープレス

左：フローレンスシュループは2月にボーイフレンドと一緒に英語を勉強するためにウィニペグに来ましたが、現在は孤立しています。右：最近の英国の卒業生、オルフェミ・オシノウォと彼の息子のダミシは、パンデミックの中でウィニペグで生活を始めています。